

10か国45社に展開するSAPシステムの インフラ更改にともなうシステム移行と DR環境の強化にファルコンストア製品を活用

印刷インキ、有機顔料などの色彩化学分野のグローバルリーディングカンパニーとして知られるDIC株式会社（ディーアイシー：以下、DIC）では、グローバルに展開するSAPシステムのインフラ移行とDR環境の運用に、FalconStor FreeStor データ保護技術（以下、ファルコンストア製品）を採用している。導入の経緯と効果について詳しく伺った。

課題

（SAPシステムにおける）

- システムインフラ更改にともなうスムーズな移行
- DR環境の運用負荷軽減とオペレーションの簡易化

導入製品

- FalconStor FreeStor データ保護技術

システム概要

- SAPシステムのシステムインフラ更改とDR環境の運用

グローバル経営基盤として、10か国45社のグループ企業にSAPシステムを展開

色彩化学分野において世界的に事業を展開しているDICグループでは、グローバル企業に相応しいコーポレートガバナンスを確立するため、国内外を問わずグループ内の業務プロセスの統合や標準化をはじめ、人材の交流・育成などに取り組んでいる。

こうした経営・事業の更なるグローバル展開や統合・連携の基盤として、SAPシステムをグローバルに展開。2012年のインドを皮切りに、2015年までに日本、アジアパシフィック、中国地域の10カ国45社への導入を完了している。

パフォーマンスの改善やDR対策を強化するため、システムインフラの更改を検討

一方、グローバルにシステムを展開する中で約5年が経過。保守契約の更新など、システムインフラの見直しを図るタイミングを迎えていた。

「SAPのようなパッケージシステムの場合、ソフトウェアのチューニングによるパフォーマンスの改善には限界があります。そのため、システムインフラ更新のタイミングで、バックアップ時間の短縮など利用企業数増加に順応するためのパフォーマンスの改善。さらには、事業継続性を向上させるためのDR対策の強化。バックアップやDR環境の運用にかかる負荷とコストの削減を実現したいと考えました」と、DICの橋口氏は語る。

高性能なハードウェアとファルコンストア製品の組み合わせに期待

そこでDICでは、「フラッシュストレージの採用」を前提に、「テープバックアップ環境の廃止」、「短時間でシステムの切り替えや復旧ができるオペレーションの確立」といった要件項目をベースに、複数ベンダーからの提案を比較・検討した。

その結果、高性能フラッシュストレージ（Hitachi Virtual Storage Platform G400）とファルコンストア製品との組み合わせをベースとした株式会社日立製作所（以下、日立製作所）からの提案を採用した。

その理由についてDICの岡田氏は、「性能が高く、導入実績が豊富なサーバやストレージ製品によるシステム構成」や「設計、構築、移行、運用まで一貫した親和性の高い提案」といった点を評価したと説明。さらに、ファルコンストア製品によって、システムの移行やDR環境の運用をシンプル化できる点。さらには日立グループ（株式会社日立ソリューションズ）におけるファルコンストア製品の導入および運用実績が豊富であることに対する安心感と期待も大きかったという。

企業紹介



Color & Comfort

社名：DIC株式会社

業種：印刷インキ、製缶塗料、有機顔料、液晶材料、合成樹脂、インクジェットインキ、光ディスク用コート剤・接着剤、樹脂着色剤、エンジニアリングプラスチック、機能性コンパウンド、機能性光学材料、多層フィルム、粘着製品、磁気製品、中空糸モジュール等の研究開発、製造、販売

1908年、印刷インキの製造と販売で創業。2008年4月には、大日本インキ化学工業株式会社からDIC株式会社に社名を変更した。世界で60を超える国と地域に事業を展開しているグローバル企業である。印刷インキの基礎素材となる有機顔料と合成樹脂をベースに事業範囲を拡大し、素材から加工にいたる広範な製品群を提供。プリンティングインキ、ファインケミカル、ポリマ、コンパウンド、アプリケーションマテリアルズの5つの事業セグメントを通じて、社会と顧客のニーズに対応した製品を幅広く展開している。

取材時期：2017年2月



DIC株式会社
情報システム本部
テクニカルソリューション
グループ 主任
橋口 公規 氏



DIC株式会社
情報システム本部
テクニカルソリューション
グループ
岡田 茂 氏

移行とDRの両面で利用できるファルコンストア製品を提案

今回の移行プロジェクトのマネージャを務めた日立製作所の上木氏および同社の竹内氏は、移行とDRの両面で利用できる点を高く評価。ファルコンストア製品を提案に組み込んだ理由として、次のポイントを挙げた。

システム移行

- ストレージ製品や環境に依存せずにデータのレプリケーションができるので、運用負荷が少なく、システムの変更などにも柔軟に対応できる環境を構築可能。
- レプリケーションを止めずに移行先のデータを利用して動作確認ができるので、ダウンタイムを最小化しながら、安全かつ確実なデータの移行準備と移行が可能。

DR環境運用

- DR環境の運用が容易で、負荷やコストを抑えることが可能。
- ファルコンストア製品のエージェントソフトは動作が軽く安定しており、システム環境へ影響が少ない。
- 既存のDR環境の設定変更が不要。
- 日立製作所のフラッシュストレージとの組み合わせ実績があること。

約60台のサーバと約90TBのデータを新規インフラ環境へ移行

2016年、ファルコンストア製品を使用して、本番環境約30台のサーバと約30TBのデータを新規インフラへ移行。DICの實光氏は、「段階的に新環境へとデータをレプリケーションしながら移行準備を進め、最終的に残った差分データをコピーするだけでデータ移行を完了。スムーズに最終的な切り

替え作業ができ、移行作業も予定よりも早く終わることができました」と移行時の様子を語る。

バックアップメディアがテープからディスクへ変わったことで、バックアップ時間は大幅に短縮された。翌日の業務時間までかかっていたバックアップが夜間で完了するようになった。テープの入れ替えや保管業務も不要になったという。

あわせて関東圏ー関西圏のデータセンター間におけるファルコンストア製品によるDR環境の運用も開始。通常は同期エラーがないかどうかをチェックする程度で済み、いざという場合でもバックアップ環境から本番環境への切り戻し作業が容易なので、属人化せず運用負荷もかからないと評価されている。「リストア作業も容易で特別なエクササイズ（訓練）も不要です」と橋口氏は語る。

将来的には、クラウドによるDR環境の構築も検討


今回のシステムインフラの更改で、グローバルに展開するSAPシステムの信頼性が向上すると同時に、運用負荷の軽減を実現。あわせて、機器のトラブルや自然災害などに対するBCP対策も強化された。

今後DICでは、さらに安全性や堅牢性を高め、運用負荷やコストをかけずにDR環境を整備していく方針で、ファルコンストア製品を利用したクラウドによるDR環境の構築も積極的に検討していく予定だ。

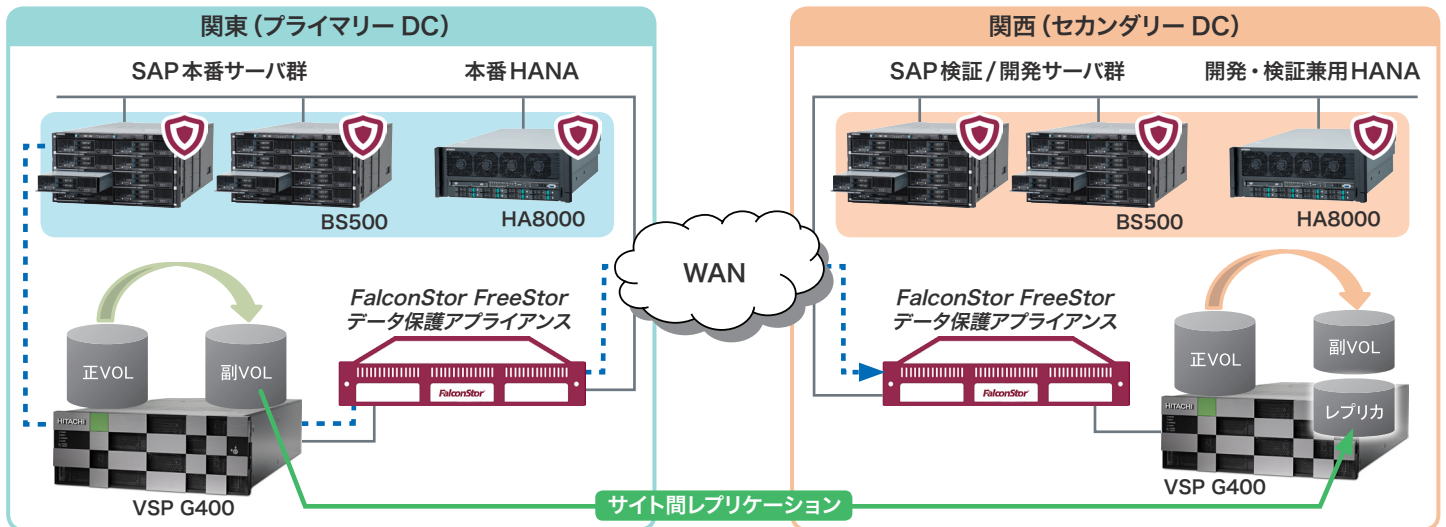


DIC株式会社
 情報システム本部
 テクニカルソリューション
 グループ
 實光 祥浩 氏

事例用構成図

 FalconStor FreeStor データ保護エージェント (DiskSafe)

 DR用データの流れ



ファルコンストア・ジャパン株式会社

〒101-0051
 東京都千代田区神田神保町3-10 ハイセンスビル6F
 Tel: 050-3816-5444 Fax: 050-3730-0287
sales@falconstor.co.jp
www.falconstor.co.jp

■ お問い合わせは